

E-4 近郊農村地域の生活の変容（第3報）
—近郊農村居住者（主として農民）の生活環境への要求(1)—

奈良女大家政 ○堀田 千尋
扇田 信
足達富士夫

1. 1, 2報に於て、近郊農村地域農民の経済的基盤の変容及び、農業に対する意識が、都市化により動かされ、又、両者の関係も、決して無縁でないことをみた。ここでは、近郊農村居住者（主として農民）の、生活環境への要求が、地域別、階層別、年度別に、どのような傾向を持っているかを明らかにする。

2. 近郊農村居住者（主として農民）の、生活環境への要求を、次の4つのものについて検討する。1)、農機具流入状況。2)、住宅改善、3)、電気製品普及。4)、モータリゼーション。

今回は、1)についてのみ発表する。

農機具は、農民にとって、生活の糧を得るための必需品であり、購入状況の頻度は、住民の農業生産生活への意欲を示す指標とみなされる。調査対象地、期間、回収部数等については、第1報と同じである。

3. 1) 農機具には、農業経営規模に関係なく普及するものと、他方、農業的性格の強い地域で、経営規模の大きい程、普及度の高いものがある。

2) 1)に於ける前者は、農業生産を、かろうじて、維持する性格のものであり、後者は、生産性をあげ労力を省く性格のものである。

3) 1)、2)によって、近郊農村農家の、農業生産技術は、新しい型の農機具が流入する度に、その較差を増していることがうかがわれる。